

都市再生整備計画 事後評価シート
はんた れきし ぶんか かお
半田歴史文化が香るまち地区

令和7年3月

愛知県半田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	愛知県	市町村名	半田市	地区名	半田歴史文化が香るまち地区			面積	178.0ha	
交付期間	令和2年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	635.2百万円(国費:307.2百万円)	国費率	48.4%			
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	事業名								
		基幹事業	(高質空間形成施設)JR半田駅周辺景観道路整備事業、半田運河周辺景観道路整備事業							
		提案事業	—							
	当初計画から削除した事業	事業名				削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
		基幹事業	(高質空間形成施設)JR半田駅周辺景観道路整備事業		JR半田駅前区画整理事業の進捗状況に伴い、交付期間内に整備工事を実施することが見込めないため。		影響なし			
	提案事業	—		—		—				
	新たに追加した事業	基幹事業	(道路)高架側道整備事業((都)武豊線東側道1号線ほか5路線)		整備計画の変更に併せて、関連事業から基幹事業に変更。		影響なし			
			(道路)荒古線整備事業		JR武豊線の高架化にあわせ、中心市街地及び周辺地域へのアクセス改善及び回遊性の強化を行う。		・指標の変更(第2回変更) 半田運河・JR半田駅周辺歩行者数 従前値:143人/年→12,493人/年 目標値:210人/年→12,993人/年			
			(高次都市施設)岩滑公民館整備事業		環境拠点の一つである岩滑地区において、南吉童話の世界観を創造し、維持していく活動を支える人たちの活動拠点として岩滑公民館の整備を行う。		・指標の追加(第2回変更) 地域交流センター利用者数 従前値:1,303人/年 目標値:1,500人/年			
			(高質空間形成施設)半田赤レンガ建物整備事業		ジブリ作品「風立ちぬ」にも登場するかつて名古屋駅前に実際に設置していたカプトビールの広告塔を、半田運河周辺地区と岩滑地区とをつなぐ観光拠点である半田赤レンガ建物に実寸大で再現し設置することで、まち歩きをしている人にかつてカプトビル工場であった歴史を感じていただくとともに、ジブリパークの開園に合わせて、さらなる誘客と賑わい創出を図るため。		・指標の変更(第3回変更) 半田運河周辺・半田赤レンガ建物観光入込者数 従前値:414,505人/年→891,429人/年 目標値:428,380人/年→919,179人/年			
			(道路)電線共同溝整備事業((都)新川線ほか2路線)		JR半田駅周辺において、歴史・文化が感じられる良好な景観を有した道路の整備に併せて、電線共同溝の整備を実施するため。		・指標の変更(第4回変更) 半田運河・JR半田駅周辺歩行者数 目標値:12,993人/日→13,093人/日			
			(高次都市施設)創造・連携・実践センター整備事業		中心市街地周辺エリアにおいて、地域の活性化のために、現代的なライフスタイルを実現できるシェアオフィスなどとして活用できるテレワーク施設を整備するため。		・指標の変更(第5回変更) 半田運河・JR半田駅周辺歩行者数 目標値:13,093人/日→13,109人/日			
		提案事業	(地域創造支援事業)高架下空間活用検討		JR武豊線の高架化によって生み出される高架下空間において、駅周辺の賑わい創出や地域の活性化等を図る。		影響なし			
			(地域創造支援事業)チャレンジショップ整備事業		中心市街地周辺エリアにおいて、起業などにより産業人材を育成することを目的としたチャレンジショップを整備するため。		・指標の変更(第5回変更) 半田運河周辺・JR半田駅周辺歩行者数 目標値:13,093人/日→13,109人/日			
			(事業活用調査)事後評価業務		R6年度に本計画が終了するにあたり、目標値の達成度や次期計画の目標値の設定のために、業務委託にて調査を実施するため。		影響なし			
			(まちづくり活動推進事業)中心市街地活性化プラン作成事業		公民連携による中心市街地の活性化に向け、地域のまちづくり人材育成等を目的にワークショップ等を実施するとともに、アクションプランの作成を実施するため。		影響なし			
	交付期間の変更	当初	令和2年度～令和6年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	—					
変更		—								

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指 標			従前値	目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度			モニタリング	評価値						
	指標1	「良い景観が形成されていること」に対する満足度	Pt	6.95	R1年度	7.29	R6年度		4.31	×	あり	JR半田駅前土地区画整理事業及びJR武豊線半田駅付近連続立体交差事業の進捗状況に伴い、一部区間のみしか整備できなかったことや用地買収した箇所が更地のままになっていることによって、景観に対する満足度が低下していることが考えられる。ただし人道橋やカプトビールの広告塔の整備により、歴史・文化を感じながらまち歩きが楽しめる景観形成は確実に発現している。	—
	指標2	半田運河・JR半田駅周辺歩行者数	人/日	12,493	R2年度	13,109	R6年度		15,099	○	あり	人道橋の整備により半田運河周辺の回遊性が向上したことや、半田運河活性化推進事業や中心市街地活性化支援事業によるイベント等の実施を契機に、日常的にイベントが開催されるようになり、歩行者数増加に寄与した。	令和8年度
	指標3	半田運河周辺・半田赤レンガ建物観光入込者数	人/年	891,429	R1年度	919,179	R6年度		926,319	○	あり	人道橋の整備により、半田運河周辺の回遊性向上及びカプトビールの広告塔の整備による集客性が向上し、歩行者の増加、半田運河周辺の施設利用者やイベント参加者の向上に寄与した。	令和7年度
	指標4	地域交流センター利用者数	人/年	1,303	R1年度	1,500	R6年度		2,032	○	あり	南吉童話に親しみを持っている幅広い世代の人たちが集う地域交流センターとしてリニューアルしたことにより、利用者数が増加した。	令和7年度
											なし		
3)その他の数値指標 (当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指 標			従前値	目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期
		単位	基準年度			モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	おおむね5年前と比較した「『良い景観が形成されていること』に対する満足度」の向上	Pt	0.00	R6年度	—	—		4.54			5年前と比較して、人道橋の整備やカプトビールの広告塔の設置等が、周辺の街並みに配慮しながらかつ歴史・文化を感じさせるまちの景観の満足度に寄与した。	—
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況	半田・成岩地区において「『良い景観が形成されていること』に対する満足度」を確認する住民アンケート調査の自由意見において、半田運河周辺景観道路整備事業によって半田運河沿いの景観が良くなり、かつ、人道橋が整備されたことで散歩やまち歩きがしやすくなった等の意見があった。												
5)実施過程の評価	実施内容					実施状況					今後の対策方針等		
	モニタリング		—			都市再生整備計画に記載し、実施できた			—		—		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			—				
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			—				
	官民連携による取組		中心市街地ビジョンワークショップ (未来図づくりワークショップ)			都市再生整備計画に記載し、実施できた					知多半田エリアでは半田市創造・連携・実践センターを運営するエリアマネジメント会社を中心に、今後も知多半田駅前広場の設計や改修後の活用に向けた社会実験や、おおた公園の利活用実験などを検討していく。 半田駅周辺エリアは高架事業などの公共空間整備の状況を市民や事業者と共有しながら、エリアマネジメントの運営主体づくりのために研究や協議を重ねていく。 半田運河エリアでは、未来図に描いた「文化産業の湊」として、経済効果を高める居場所づくりのための実証実験やコンテンツ作りを重ね、交流人口の受入れ環境づくりのために低未利用地の調査や出店希望者とのマッチングを進めていく。 なお、これらの事業は、公民が連携して実施していく。		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			●				
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
持続的なまちづくり体制の構築		中心市街地活性化協議会の発足 半田運河エリアのまちづくり拠点「__unga」の整備および エリアマネジメント会社「はんだのたね」の設立			都市再生整備計画に記載し、実施できた					協議会中に設けた中心市街地内の3エリアの部会において、中心市街地活性化基本計画をふまえた活性化方策などの調査・検討・策定を行い、エリアマネジメント会社を中心に、プレイヤーの巻き込み、公民が連携して実施していく。			
					都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した			●					
					都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

半田市歴史文化が香るまち地区 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
半田の歴史文化が感じられるまちづくり 目標1: 半田の歴史や文化が感じられるまちづくりを目指す。 目標2: 回遊性が高く、快適にまち歩きが楽しめる中心市街地の形成を目指す。 目標3: 賑わいのある中心市街地の形成を目指す。	「良い景観が形成されていること」に対する満足度	Pt	6.95	R1年度	7.29	R6年度	4.31	R6年度
	半田運河・JR半田駅周辺歩行者数	人/日	12,493	R2年度	13,109	R6年度	15,099	R6年度
	半田運河周辺・半田赤レンガ建物観光入込者数	人/年	891,429	R1年度	919,179	R6年度	926,319	R6年度
	地域交流センター利用者数	人/年	1,303	R1年度	1,500	R6年度	2,032	R6年度



岩滑公民館整備事業
南吉童話の維持活動の拠点の確保及び新たな担い手の模索・育成のために地域交流センター（公民館）の整備を行った。



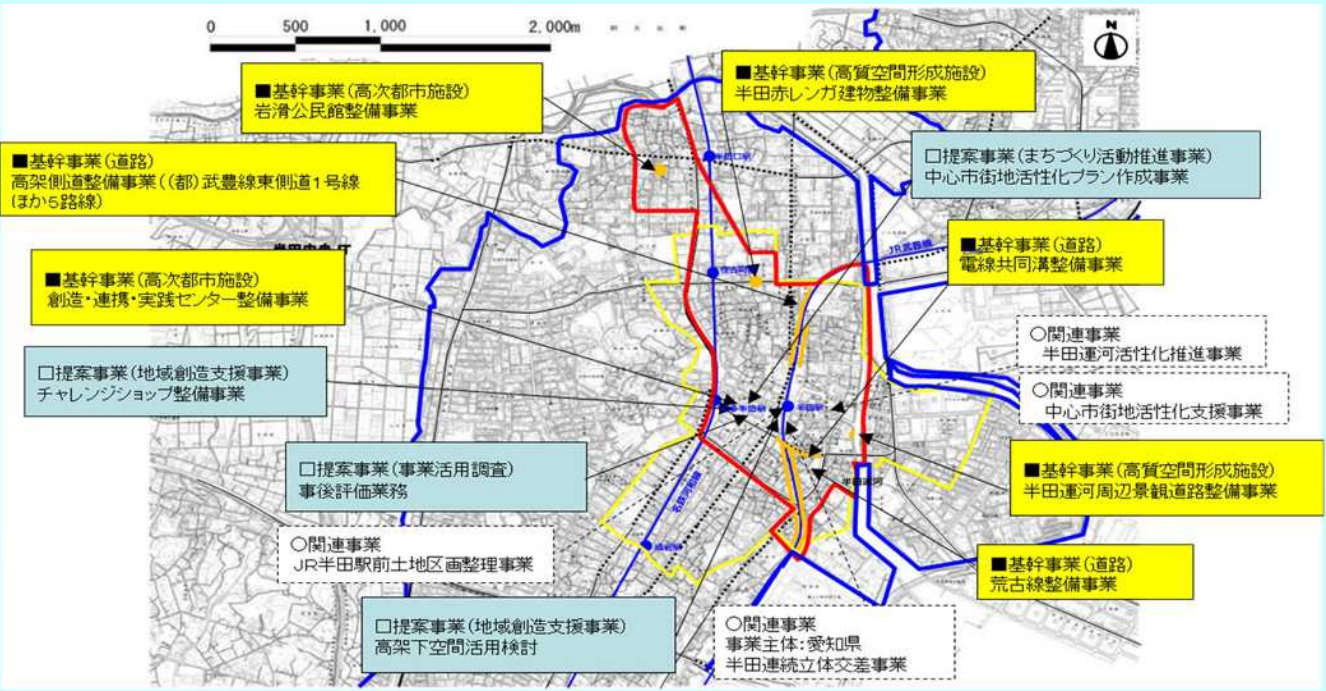
創造・連携・実践センター整備事業
名鉄知多半田駅前地区において、産業人材が集まれるようなテレワーク施設及び創業支援を目的としたチャレンジショップの整備を行った。



半田赤レンガ建物整備事業
半田赤レンガ建物において、かつてビール工場であった歴史を感じられるようカプトビールの広告塔の整備を行った。



半田運河周辺景観道路整備事業
半田運河周辺地区において、歴史・文化を感じながらまち歩きを楽しめるよう橋梁（人道橋）の整備を行った。



地図には、半田市の中心市街地と半田運河周辺が示されています。事業の範囲は色で区別されています：
■ 基幹事業（高次都市施設）：岩滑公民館整備事業、創造・連携・実践センター整備事業、半田赤レンガ建物整備事業、半田運河周辺景観道路整備事業、荒古線整備事業。
■ 基幹事業（道路）：高架側道整備事業（(都)武豊線東側道1号線（ほから路線））、電線共同溝整備事業、荒古線整備事業。
□ 提案事業（まちづくり活動推進事業）：中心市街地活性化プラン作成事業。
○ 関連事業：半田運河活性化推進事業、中心市街地活性化支援事業、JR半田駅前土地区画整理事業、事業主体：愛知県半田連続立体交差事業。
□ 提案事業（地域創成支援事業）：チャレンジショップ整備事業、事後評価業務、高架下空間活用検討。
○ 関連事業：半田運河活性化推進事業、中心市街地活性化支援事業。

まちの課題の変化	・半田運河における周辺景観に合わせた人道橋の整備により、周辺の回遊性が向上し、周辺の観光施設利用者も増加した。今後は、名鉄知多半田駅・JR半田駅周辺から半田運河周辺をつなぐエリア全体の回遊性向上の必要がある。 ・名鉄知多半田駅・JR半田駅間における創造・連携・実践センターの整備により、中心市街地に地域で活動する人材の交流・活動の場が創出された。今後は、整備した施設を拠点とした産業人材育成の必要がある。 ・JR武豊線の高架化にあわせた道路整備に向けて用地取得・設計が進んだ。今後は、JR武豊線の高架化にあわせた道路の早期整備の必要がある。 ・岩滑公民館の整備により、南吉童話に親しみをもつ地域の幅広い世代の人たちが集える拠点を形成した。 ・半田赤レンガ建物において、かつてカプトビール工場であった歴史を感じられる広告塔を設置し、拠点としての存在感が増した。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	・半田運河周辺の回遊性を維持・向上する取組を継続する。 ・創造・連携・実践センターにおいて交流・活動の場として適切な維持管理・運営をするとともに、日常的な交流イベントの実施や創業支援を実施し、地域の担い手になりうる人材の定着や育成を促進する。 ・計画的な事業継続による着実な道路整備を進めることで、渋滞を緩和し中心市街地内及び周辺地域へのアクセス性を向上する。 ・岩滑公民館において地域住民が活動しやすい施設として適切な維持管理・運営をするともに、地域の幅広い年代の交流を継続しながら地域活動団体の形成促進を図る。 ・半田赤レンガ建物において今後も歴史的な魅力が感じられる整備を進めることで、観光客誘致を推進する。 ・名鉄知多半田駅・JR半田駅周辺から半田運河周辺の移動空間をウォーカブルな人中心の空間とすることで回遊性を向上する。